

明治大学 校友会 秋田県支部会報

第 26 号
H 28. 8. 10

加賀支部長が2期目 総支部特別講演会も開催

明治大学校友会秋田県支部の2016年度総会が6月19日、秋田市のホテルメトロポリタン秋田で開かれ、任期満了に伴う役員改選で加賀勝己支部長（弁護士、昭和40年・法卒）を再選、加賀体制が2期目のスタートを切った。総会には約60人の校友らが

出席、今年は平成になってから卒業した若い世代の姿が目についた。冒頭、全員で「白雲なびく駿河台」で始まる校歌を3番まで斉唱し、出席者一人ひとりが母校に思いを馳せた。

まず加賀支部長があいさつに立ち、「新たな県支部会報

を発行し、支部のホームページも立ち上げた」と1年間の活動を振り返りながら、「今年度も支部の活動が活発になるよう取り組んでいく」と強調した。

続いて来賓として出席した坂本恒夫・明治大学大学院長が「明治大学は、今や私学の雄ということで強い関心を持たれているし、同時に厳しい目でも見られている。校友の皆さんのご支援、ご協力を得ながら頑張っていきたい」と

さる6月19日にホテルメトロポリタン秋田で2016年度校友会秋田県支部の総会を開催しました。大学本部からの来賓を含め約60名の校友が出席し、若いも若

た。演題は、「マイナス金利と秋田経済」となっており、大変時宜にかなうお話であり、校友の皆さんも熱心に聞いておられました。今後このような催しを開催したいと

県南及び県北の有志がマンダリン倶楽部の公演を計画しましたので、秋田県支部としてもこれに協力支援します。

以上のほか、今後も明治大学秋田県父母会との連携を強化し、若い校友の参加を呼び掛けていきたいと考えております。



若い校友の参加を

明治大学校友会秋田県支部

支部長 加賀 勝己

きも大学の思い出或いはお互いの近況に話が盛り上がりしました。

今年には総会とは別に、経営学博士明治大学大学院の院長である坂本恒夫教授の特別講演会を主催しまし

思っておりますので、ご期待ください。

今年には役員改選でしたので、副支部長を各層各年代からお願いし、校友会活動を更に活発化したいと考えております。また校友会活動として

最後に全国校友大会は、今年には鳥取県で行われま

す。少し遠いのですが、前もご紹介したように、すごい元気をもらえますので、是非参加することをすすめ

します。

あいさつ。同じく来賓として福島から駆け付けた明治大学校友会の増子真也・副会長が「校歌を3番まで歌う支部は少ないので、今日は感動した。熊本大震災に関して、校友会が熊本支部にお見舞金を直接お渡しすることになっているので、校友の皆さまのご協力をお願いする」と述べた。

総会に先立ち、坂本・大学院長が「マイナス金利と秋田経済」どうなる企業経営、どうなる私たちの暮らし」と題して特別講演を行った。

坂本・大学院長はマイナス金利を縦軸にして日本経済や秋田経済の特徴に触れながら、日本や地方、企業がこれから進むべき方向について言及。「これから大事なことは、産業構造の変化を読むこと。地域イノベーションとITイノベーションをプラスしながら、アンバンドリングとコラボレーションで新たな価値を創出することが重要だ」と強調した。

特別講演会には校友以外の一一般の人も参加し、会場からは鋭い質問が飛び出すなど、久しぶりに開催した講演会は大いに盛り上がった。

（役員名簿などは2面に、特別講演要旨は3面に掲載）

連携強化 テーマに

この1年、秋田県支部校友の皆様に支えられ、いくつかの事業に取り組んで参りました。「支部会報」の発行、「秋田県支部ホームページ」の開設、「講演会」の開催などが主な内容となります。写真は総会後の懇親会の様子。

多くの組織がそうであるように、新たな価値を生まなければ組織の成長発展は望めません。特にネットワーク化された社会では、新たな価値は多くの人々の協働によってもたらされることが多いのに気づかされます。いかに上手く機能させられるかが成否を分けるように思います。

今年度は、そうした観点から「連携強化」を目標に掲げ、支部の事業を展開して参りたいと考えております。

支部会報やホームページの機能拡充は勿論のこと、広い秋田県を北から南まで、いかに連携強化が図れるかが大きな課題となります。幸いにも「北秋明大会」と「県南支部」が活発な活動を展開して下さっていますので、これを核に秋田県支部を大きな連携の

秋田県支部役員 (2016—2017年度)

相談役	太田平八郎 (昭和28年・法卒)
	長山 讓 (同 30年・法卒)
	小畑 伸一 (同 30年・政経卒)
	大城 石基 (同 30年・法卒)
支部長	加賀 勝己 (同 40年・法卒)
副支部長	乳井 宏資 (同 37年・政経卒)
	木村 友勝 (同 39年・農卒)
	木村 了 (同 44年・政経卒)
	鶴田 有司 (同 50年・経営卒)
	大地 進 (同 52年・政経卒)
	進藤 勝実 (同 54年・商卒)
	猿田五知夫 (同 55年・政経卒)
	桜庭 誠 (同 56年・工卒)
	山崎 義裕 (同 56年・工卒)
	連沼千佳子 (同 57年・文卒)
代議員	木村 了 (同 44年・政経卒)
	瀬下 和夫 (同 56年・文卒)
	金子 敬司 (平成4年・経営卒)
監査委員	大淵 宏見 (昭和54年・商卒)
	大友 聡 (同 57年・政経卒)
幹事長	大坂 良宏 (同 52年・経営卒)
副幹事長	新出 康史 (同 60年・政経卒)
事務局長	金子 敬司 (平成4年・経営卒)
事務局次長	三浦 正博 (昭和62年・商卒)
幹事	辻 昭夫 (同 32年・経営卒)
	遠藤 欽一 (同 35年・法卒)
	鶴田 悟一 (同 37年・経営卒)
	打川 猛 (同 39年・農卒)
	長門 靖彦 (同 40年・経営卒)

幹事	大津 勝召 (同 43年・法卒)
	澤田 祐治 (同 43年・商卒)
	菅原 道雄 (同 44年・経営卒)
	松江 正和 (同 48年・経営卒)
	宮田 正一 (同 49年・農卒)
	松尾由美子 (同 49年・文卒)
	佐々木 満 (同 52年・商卒)
	東海林 洋 (同 53年・法卒)
	小林 科樹 (同 54年・商卒)
	佐々木 章 (同 55年・商卒)
	高橋徳一郎 (同 56年・政経卒)
	瀬下 和夫 (同 56年・文卒)
	相場 修 (同 60年・政経卒)
	齋藤 登里 (同 61年・商卒)
	工藤 千里 (同 61年・法卒)
	村井 成人 (同 62年・法卒)
	川本 英樹 (平成2年・政経卒)
	稲葉 隆 (同 3年・農卒)
	山本 茂毅 (同 4年・法卒)
	大関 衛 (同 4年・政経卒)
	白川 雅浩 (同 4年・商卒)
	佐々木 仁 (同 10年・法卒)
	佐々木貴徳 (同 10年・法卒)
	麻木 仁 (同 11年・法卒)
	加藤 圭輔 (同 14年・商卒)
	奈良田鮎子 (同 18年・政経卒)
	加藤 千秋 (同 20年・文卒)

代議員の任期は2017年総会まで

輪に育てていきたいものだと考えております。また、秋田県と明治大学との間でキャリア支援に関する協定締結の動きがあります。これに関しては、秋田県父母会との連携が必要となって参ります。明治大学秋田県父母会では全国的にも注目されるような活動を行っている組織ですので、支部校友会の方が体制強化を図っていかなければ



収支計算書(自 2015年4月1日 至 2016年3月31日) (単位:円)

収入の部	予算額	決算額	差額
I 本部より助成金収入			
1 支部総会開催通知費	150,000	165,877	-15,877
2 支部総会会場費	150,000	175,200	-25,200
3 支部運営助成金	218,000	218,000	0
II 支部会費収入	420,000	450,000	-30,000
III 総会費収入	300,000	258,000	42,000
IV 事業収入	0	0	0
V 寄付金収入	50,000	82,000	-32,000
VI 特別寄付金収入	0	0	0
VII 果実収入	300	1,610	-1,310
VIII 広報費	0	0	0
IX 雑収入	0	0	0
X 基金取崩収入	0	0	0
収入合計	1,288,300	1,350,687	-62,387
前年度繰越収支差額	4,035,742	4,035,742	0
合計	5,324,042	5,386,429	-62,387
支出の部	予算額	決算額	差額
I 事業費			
1 学生表彰費	0	0	0
2 学生団体助成金	30,000	0	30,000
3 地域支部交流費	100,000	0	100,000
4 その他事業費	170,000	85,000	85,000
II 広報費			
1 支部会報発行費	300,000	271,253	28,747
2 広報関係費	100,000	89,296	10,704
III 組織費			
1 地域支部助成金	0	0	0
IV 運営費			
1 会議費			
(1) 支部総会費	600,000	626,398	-26,398
(2) 役員会費	100,000	70,960	29,040
(3) 監査委員会費	10,000	0	10,000
(4) 委員会費	20,000	0	20,000
(5) 業務費	50,000	20,386	29,614
(6) 事務費	40,000	40,000	0
2 慶弔費	50,000	27,660	22,340
V 積立金	0	1,202	-1,202
VI 予備費	0	0	0
支出合計	1,570,000	1,232,155	337,845
当年度収支差額	-281,700	118,532	-400,232
次年度繰越額	3,754,042	4,154,274	-400,232
合計	5,324,042	5,386,429	-62,387

収支予算書(自 2016年4月1日 至 2017年3月31日) (単位:円)

収入の部	予算額	支出の部	予算額
I 本部より助成金収入		I 事業費	
1 支部総会開催通知費	165,000	1 学生表彰費	0
2 支部総会会場費	150,000	2 学生団体助成金	30,000
3 支部運営助成金	218,000	3 地域支部交流費	600,000
4 支部公開講演会会場費	100,000	4 支部公開講演会費	250,000
5 講演会チラシ等作成費	50,000	5 熊本地震義援金	300,000
II 支部会費収入	480,000	6 その他事業費	150,000
III 総会費収入	300,000	II 広報費	
IV 事業収入	0	1 支部会報発行費	300,000
V 寄付金収入	80,000	2 広報関係費	100,000
VI 果実収入	1,000	III 組織費	
VII 雑収入	0	1 地域支部助成金	0
		IV 運営費	
		1 会議費	
		(1) 支部総会費	700,000
		(2) 役員会費	80,000
		(3) 監査委員会費	10,000
		(4) 委員会費	20,000
		(5) 業務費	50,000
		2 事務費	40,000
		3 慶弔費	50,000
		V 積立金	0
		VI 予備費	0
収入合計	1,544,000	支出合計	2,680,000
前年度繰越収支差額	4,154,274	当年度収支差額	-1,136,000
合計	5,698,274	次年度繰越額	3,018,274
		合計	5,698,274



坂本恒夫・大学院長の講演要旨

本日の講演の内容は、一言でいえば「ピンチはチャンス」ということ。改革をする最大のチャンスに今、恵まれているんだ、という風に前向きにとらえてもらいたい。

重要性増す大学院

まず私が大学院長になって何をするのか、説明したい。現在、18歳人口が減少している中で、人々が社会に出た後に再学習する時代になってきている。つまり質の高い教育、研究が求められており、それだけ大学院の重要性が増している。私の仕事は、充実した大学院をつくることに尽きる。

機関投資家の重み

さて、マイナス金利と経済・経営環境について述べたい。いまアベノミクスがなかなかうまくいかないのは、なぜか。安倍政権が「企業は設備投資を」といくら叫んでも、機関投資家は「無

ばならないかもしれない。大学の使命は「知の継承と新たな価値物の発見創造」と言われることがあります。明治大学の「独立自治」の建学の精神のもとで育まれた校友の連携がさらに強化されるならば、可能性は無限の広がりを見せることでしよう。



坂本恒夫氏

期中でも結構です。より具体的企画案をご提案下さることをお待ちしております。校友の皆様には、引き続き厚いご支援ご協力をお願い申し上げます。
(秋田県支部幹事長・大坂良宏 昭和52年経営卒)

ピンチはチャンスだ

家が必要な位置を占めている。今は、株価は利益で決まるの拡大よりも、株価の成長を求めている。政府は、その辺の認識が少し薄い。

台湾の鴻海と提携して成功し、一番利益を上げているアップルを見てみよう。アップルの利益率が35〜36%なのに対し、日本の企業はせいぜい7〜8%程度。100万円投資して、アップル

が35〜36万円、しかし日本は7〜8万円。どっちの株を買いますか、という話だ。
疲弊する地域経済

ところで秋田の経済は、日銀などの資料を見ると、生産や投資、雇用など堅調な動きをしており、中小企業の倒産も減少している。しかし中身を見ると、銀行からの経営支援を継続しているなど厳しいものがあり、その結果として地域経済が疲弊している。

「これからどうするか」を考えるにあたって、触れたいことがある。「萌え系」の美少女のイラストを米袋に印刷して、1カ月で2年分の「あきたこまち」を販売した羽後町のケース。これをバックアップした当時の北都銀行西馬音内支店の支店長で、明治大学の校友でもある佐々木章さんの言葉だ。
彼はこう言っている。「他にはない地域事業資源」と「新し

●秋田県支部のホームページ、ご覧になりましたか

明治大学校友会秋田県支部は平成28年3月20日、県支部のホームページを立ち上げました。活動報告や校友の皆さんへのお知らせ、加賀支部長のあいさつ、県南支部や北秋明大会の動向などを盛り込ん

いインパクトのある付加価値」を組み合わせ、異業種のネットワークに乗せて情報発信を継続することでビジネスチャンスは拡大する」と。
コラボで新価値を

これから大事なことは、産業構造の変化を読むことであり、地域イノベーションとITイノベーションのアンバンドリングとコラボレーションをすることだ。つまり、それぞれの地域特質を生かしながら、コラボレーションで新たな価値を創出することが重要なのだと思う。

秋田には「秋田元気創造イノベーション推進地域」がある。産学官が構成機関となつてイノベーション創出を目指すものだが、その分野は環境や資源、新エネルギー、ナノテクノロジーなどだ。しかし重要なのは、こうした分野だけでなく、既存のすべての分野においてITで活性化していかなくてはならないことだ。そうしなければ、地方の創生はない。

でいます。
今後は徐々に内容を充実していきたいと考えていますので、時々アクセスしてみてください。



●来年度の総会日程

校友会秋田県支部の正副支部長会議がこのほど開かれ、県支部の来年度総会は平成29年7月8日(土)、秋田市の秋田キャッスルホテルで開くことが決まりました。

●全国校友鳥取大会

全国校友鳥取大会が11月12〜13日、鳥取市の「とりぎん文化会館」を主会場に開かれます。鳥取は明治大学の創立者・岸本辰雄先生の故郷でもあり、奮ってご参加を。参加締め切りは9月16日。なお参加者には県支部から2万円が補助されます。詳細は事務局まで。

お知らせ

◆明治大学マンドリン倶楽部の演奏会が横手、大館両市でいよいよ開催。横手市では8月28日午後3時半から横手市民会館で開催。平成高校吹奏楽部が特別出演する。チケットは前売りでA席(座席指定)が3千円、B席(自由席)2千円で、当日はいずれも

五百円増し。問い合わせは鶴田(0182-32-0220)。

一方、大館市では翌29日午後6時半から大館市民文化会館で。チケットは前売りで大人2千5百円、学生千円で、当日は5百円増し。問い合わせは同文化会館(0186-49-7066)。
校友の皆さん、久々の演奏会が楽しみですね。

駿台ア・ラカルト

(明治大学HPより)

◆進学校教諭が選ぶ「生徒に人気のある大学」で、明治大学が全国1位に。大学通信が全国の高校教諭に調査した「生徒に人気のある大学」ランキングで、明治大学が全国1位に選ばれました。本学が1位に選ばれたのは、2013年

以来2回目となります。

このランキングは、全国の進学校2000校の進路指導教諭を対象に、大学通信が調査を行ったもの。詳細な結果は東洋経済ONLINEに掲載され、本学がランキング1位を獲得した理由として、キャンパス整備、新学部の設置、入試制度などの取り組みが紹介されています。

編集後記

あの東日本大震災の直後のことは、生涯忘れることができない。秋田県内は余震と停電で筆者も恐ろしい一夜を過ごした。被災地の凄まじさを実感したのは翌日になってからだ。さらには数日後に首都圏の状況を知る。多くの帰宅難民が出たことを。当時は自分たちの生活や被災地の復興に気をとられ、「難民とは大げさな」と、さらりと受け流していた。でも、決して大げさではなかった。▼東京で352万人、首都圏で515万人。これが帰宅難民の推計である。ざっと秋田県民の5倍にも当たる。一時的にせよ、これほどの人々が難民化すればどうなるか。ぞっとする。▼難民を大学が受け入れたことは知っていたが、わが母校がいち早くキャンパスを開放したことは初めて分かった。総会前の特別講演で坂本恒夫・大学院長が胸を張った。「あの東大や早稲田より早く、明治がすべてのシャッターを開けたんですよ」と。大したもんです。

(編集担当・大地)

寄稿・投稿

である。

私はそこに映る家族の顔を見る度に考えさせられることがある。それは、「自分は何のために東京に来た

1年生の春、ジャズを演奏するサークルに入り、現在は一軍(レギュラーバンド)の首席トランペッターとして、日々ジャズと(もちろん学業も)、そしてかけがえない仲間たちと向き合っている。そんな私は、大学進学のために親元を離れ、今は和泉校舎の近くで暮らしているが、私の机の上には1枚の家族写真が立て掛け

のか」ということだ。振り返ると、今の私があるのは、私の想いを全面的に後押ししてくれ、いつも私の体調や将来を気遣ってくれた家族がいてこそだということをもっと感じていた。そこで、その家族に対して何らかの形で恩返しをしたい。

ぶれなかつたもの

白沢 迪大

今すぐにはできること、そして私が就職して経済的自立を果たしてからできることもある。自分の将来は勿論だが、自分をここまで育ててくれた家族のことも同じくらい考えていくつもりだ。さて、私が就活で最も苦勞

したのは「時間のつくり方」だ。冒頭でも少し触れたが、私は一軍の首席だった。週に3日練習があり、これに自主練習も合わせると私はほぼ毎日トランペットを吹いていた。その活動が4年生の3月、勿論、就活の時期もお構いなく続く。これに対して当初は

親に「サークルは3年生になつたら辞めなさい」と言われていた。
3・4年生にもなつて未だに興味に没頭し続けることに対して心配するのは親として当然であり、私も多少の背徳感があった。しかし私は、サー



クルも就活も最後まで諦めずに取り組む覚悟を崩さず、親の理解も得て、活動を続けながら第一志望群の企業から内定を頂くことができた。何よりも家族には感謝している。本当にありがとう。(商学部4年)